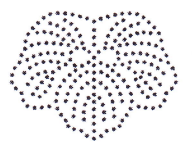


「リウマ伝」は高野の分身がお客様のごほうびに伺う。という気持ちでお届けしています。



# リウマ伝

49号  
2023年12月26日  
高野 竜馬

「令和5年の漢字は？」

世相を漢字一文字で表現する  
「今年の漢字」が12月12日、京都清水寺で発表されました。今年のは「税」。皆様はいかがでしたか？

私は「捨」です。先月は3日間の断食生活を送り、脂肪をちぎりとだけ捨てました(笑)。

それも、リウマ伝10月号にも書いたとおり、母の終活をしてみ、捨てることの大切さを実感したからでしょうか。

何を捨てるかは何を遺すかという問題でもあります。母のモノ、そのモノ、家族のモノを捨てるながら、人間にとって本当に必要なモノを吟味するようになりました。

そうやって「捨てる」を意識

していたら、ふと、今年2月、富士山の麓で行われたセミナーの講師を思い出しました。

お嬢様育ちの女性経営者のお話。親のコネで会社を作り当初は上手くいくも徐々に赤字に転落。もう閉めなければ

と思いつつ、ズルズル損害を垂れ流し、事件が起こる。そしてその苦難を乗り越えて着算。たしかそんな話でした。

早く清算したら良いのに出来ない。「いつか取り返せる」という思いがあったと言います。正直、その話を聞きながら、「この人お嬢さん育ちの甘ちゃんだな」なんて感情を抱いたもので、とても不快な話でした。

でも「捨てる」を意識するよ

うになって、自分も同じことをしてらな、って気づいたのです。書斎にはあふれんばかりの本。それも買っただけで読んでないものが山積み。

私は講師に私自身を見ていたのかも知れません。この本を讀んで「いつか取り返してやる」と思っていたからです。いつか時間が出来たら...」で何年も先送り。

「いつか」は来ませんでした。という訳で思い切って本を売却。自己啓発に買った高額なCDやDVDは捨てました。

ネットで転売すれば、たっとうしたお小遣いにもなったでしょうけれど本以外は全て捨てました。

捨てるかどうか？迷ったものも捨てました。「片付けの魔法」を書いた近藤麻理恵さんが言うように、手にとった時、ときめきがあるかないかを基準にしたら、随分、書斎は

スッキリしました。

「捨てるに捨てる、捨てるにまた捨てる、捨てるにまた捨てる、捨てるにまた捨てる」

倫理研究所の創設者・丸山敏雄氏の歌の意味が少しだけわかるようになりました。食い意地だったり、わがままだったり、執着だったり、まだ沢山捨てるべきものはありそうで、「まことの我」は遠い気もします。

けれど少しずつ脱皮して参りますので、皆さま、どうか来年もよろしくお願ひします。



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikei.com> x-l fp.takano@gmail.com